



### 【研究内容】

- ・ラフカディオ・ハーン (小泉八雲) 研究
- ・文学の翻訳研究 (日英)

### 【研究目的】

現在取り組んでいる研究の目的は、日本におけるラフカディオ・ハーン (小泉八雲) 像の形成過程を翻訳作品の分析を通して辿ることと、文学作品にとっての翻訳の意義を明らかにすることです。

### 【今後の展開】

ハーンの作品の日本語への翻訳は早くも大正時代に始まり、「耳なし芳一の話」や「雪女」といった人気の高い作品は、これまでに何度も翻訳されてきました。近年の翻訳理論の成果も援用しながら、それらの邦訳作品を比較研究することにより、翻訳が作り出すハーン像を明らかにすることを目指します。

### 【主な研究テーマ／実績テーマと内容】

#### 【研究テーマ】

主な研究テーマの一つは、日英比較文学的な観点からラフカディオ・ハーン (小泉八雲) の正体に迫ることです。なぜハーンは、そして彼の文学は、これほど長きにわたって日本人に親しまれてきたのか。その答えを明らかにするためのキーワードは、「翻訳」です。同じ作品を何度も翻訳する意味とは何か、翻訳によってどのようなハーン像が立ち上がってくるのか、といった問題を考え続けていきます。

もう一つの大きな研究テーマは、文学にとっての翻訳の意義を考えることです。一般的に、原語を読める人にとっては翻訳は不要なものでしょう。原典との直接的な交流を妨げるという意味では、邪魔ものでさえあるかもしれません。しかし、文学作品の翻訳においては、必ずしもそうとは言い切れない部分があります。たとえば、翻訳されることで元のテキストがそれまで知られていなかった一面を見せるといったことがあるからです。現在の研究は英語と日本語の翻訳に限られていますが、文学という芸術形式をより豊かにする営みとしての翻訳の重要性を解き明かしたいです。

#### 【主な研究成果】

- ・「Mujina と貉—ラフカディオ・ハーン "Mujina" の翻訳をめぐる」『比較文化研究』第 115 号, 2015 年.
- ・『『赤い鳥』のラフカディオ・ハーン—茅原順三 (森三郎) 「赤穴宗右衛門兄弟」を通して—』『PHILOLOGIA』第 48 号, 2017 年.
- ・「ラフカディオ・ハーンの邦訳研究—平井呈一訳「耳なし芳一のはなし」の功罪—」『比較文化研究』第 130 号, 2018 年.

### 【企業との共同研究の実績】

なし